

# 国語科学習指導案

平成28年10月18日(火)

指導者 荒木 貴大

1 単元名 (1年) 身近に起きたことを話してみようー相手の反応を踏まえながら話すー

## 2 単元の目標

○話し手・聞き手の特徴を理解し、話したり聞いたりしようとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○伝える相手や内容を考えて話を組み立て、聞き手の様子を見ながら話すことできる。

(話す能力・聞く能力 イ)

○話すことの知識を生かし、聞き手の反応を見ながら話すことができる。(話す能力・聞く能力 ウ)

○表現しようとする内容にふさわしい語句を選んだり、聞き手・読み手にわかりやすい表現を工夫したりすることができる。(言語についての知識・理解・技能イ (イ))

## 3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す能力・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
①話し手・聞き手の特徴を理解し、自分の身近に起きたことを話そうとしたり、聞こうとしたりしようとしている。	①聞き手のことを考えて話を組み立て、相手の反応を見ながら話そうとしている。(イ) ②話すときに強弱・緩急・抑揚など工夫しながら話そうとしている。(ウ)	①紹介したい内容を適切に伝えるために、語句を選んでいる。(イ (イ))

## 4 単元について

### (1) 単元を貫く言語活動と扱う教材について

本単元では身近に起きた出来事をテーマに話を組み立て、発表をし合う言語活動を行う。はじめは少人数のグループで活動を行い、徐々に人数を増やしていき、最終的には一人の生徒が学級全員に対して発表を行う。

今回は発表を聞いて理解を深める活動ではあるが、特に話し手は話すことの知識を生かし、相手の反応を踏まえながら発表することを重点目標とし、聞き手は話し手の発表の仕方についてアドバイスをしたり、非言語メディアを通して反応を示したりすることを目標とした活動である。活動していく中でグループの人数を増やしていき、話し手の発表を聞き手がアドバイスすることで、話し手は多数のアドバイスの中から取捨選択をしながら、内容の推敲・発表の工夫ができる。聞き手も聞く態度や聞く能力が身につく、双方がスキルアップすることができる。また、発表をする機会を増やすことで、話すことに対する自信にもつながると考える。

### (2) 単元で身につけさせたい力

本単元は「身近に起きた出来事について発表し合う。」という言語活動を通して中学校学習指導要領第1学年「A話すこと・聞くこと」のイ「全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。」また「相手の反応を踏まえながら話す」ために、ウ「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉

遣いなどについての知識を生かして話すこと。」を目指すものである。それと同時に、話し手と聞き手の関係を形成するために、エ「必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。」にも取り組んでいく。その中で、自分に必要性がないと真剣に聞かないことも予想されるため、発表するテーマを中学生の実態に合わせたものにする必要があると考えられる。

既習の「ダイコンは大きな根？」では、内容を学習したうえで、身近な野菜について調べて発表する授業を行った。学習の振り返りでは、「相手の反応を見ながら発表をすることができなかつたので、自分の伝えたいことをうまく伝えることができたかどうかわからなかつた。」という反省が出されていた。理由としては、資料を参考にしすぎて自分の言葉に置き換えることができなかつた。原稿に頼りすぎて聞き手を意識して発表できなかつた。発表の練習はうまくいったが、本番となると緊張して相手の顔を見て発表できなかつたということが挙げられていた。

そこで今回は①どのように話を組み立て発表するかを考えさせること。②聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況をとらえて話すこと。③聞き手は反応を示しながら発表に対してのアドバイスをする。の3つの柱を中心に学習を進めていきたい。

### (3) (1) (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

第1学年で既習の「ダイコンは大きな根？」では、内容を学習したうえで、身近な野菜について調べて発表する授業を行った。前に述べた通り、反省と課題が浮き彫りとなっている。小学校時代に発表をし合う経験があまりなく、調べ学習や資料作り等を見てもぎこちない様子が見受けられた。経験を補う視点から、学級内での日々の取り組みで「30秒スピーチ」を取り入れテーマを提示し活動している。

授業では基礎的・基本的な知識の定着のトレーニングとして、毎時間最初の10分間に単作文や漢字練習や語句に関する学習などを帯学習として継続して実施している。また、この学習の帯学習では発表のトレーニングを行い、学習に対する意欲と理解を向上させたいと考えている。

## 5 千葉市の研究主題との関連

本市国語部会の研究主題は「確かな学力の育成をめざした魅力ある国語科の学習のあり方」である。国語科は、言語力育成の基盤となる教科であることは言うまでもない。そこで今回は社会生活に必要とされる「発表」を通して言語力育成と言語技術の修得を目指す。言語技術とは「思考を論理的に組み立て、相手が理解できるように分かりやすく表現すること。」(つくば言語技術教育研究所)とある。これはもって生まれた能力ではなくトレーニングによって身につけることができる能力である。本校の生徒に実態に合わせ、継続的に学習をしていけば社会生活に生きるスキルを身につけることができるといえるであろう。今後「発表」の言語活動を通して身につけた能力を生かして「討論(ディベート)」に繋がれたらと考えている。

## 6 生徒の実態

全体的には明るくのびのびと生活しており、物事に真面目に取り組むことのできる学級である。普段の授業では積極的な生徒が多く、発表の機会があると進んで挙手をする生徒が多く見受けられる。しかし、自分の意見を考えたり、書かせたりすると手が止まってしまう生徒や、グループ活動になると周りとのコミュニケーションのとれない生徒もいる。そのため、自分の意見を考えたり、書かせたりすると手が止まってしまう生徒には根拠となる部分に線を引かせたり、キーワードに印を付けたりするなど、引用しながら文章を練る指導をしている。また、周りとのコミュニケーションのとれない生徒には机間指導の際に声をかけ、グループに入れるよう支援をしている。生徒の主体性を大切に、それを支える授業を計画したい。

7 単元指導計画（全4時間扱い）

時	学習活動と内容	指導や支援の手立て（◇は評価）
1	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○話し手、聞き手としてのスキルを学習し、それぞれの立場の役割を理解する。</p> <p>○教師が模範発表をする。</p>	<p>・「相手の反応を踏まえながら話す」という目的をはっきりさせることで学習意欲を向上させる。</p> <p>・話すことの知識や聞き手の立ち振る舞いや非言語メディアについて理解させる。</p> <p>・教師の発表を見てイメージをもたせて学習意欲を向上させる。</p> <p>◇学習の見通しをもち、話し手、聞き手それぞれの立場の役割を考えようとしている。</p> <p style="text-align: right;">（観察・ワークシート）</p>
帯 学 習	<p>○授業のはじめ10分を使って4人グループになって1人1分程度の話し合い活動を行う。</p>	<p>・テーマは①驚いたこと②嬉しかったこと③悲しかったこと④その他の中から1つ選び発表を聞き合う。（テーマは毎回変え、すべてのテーマを経験する。）</p> <p>・発表に対してアドバイスをし、次回の参考にする。</p> <p>◇話し手、聞き手それぞれの立場の役割を考えようとしている。</p> <p style="text-align: right;">（観察・ワークシート）</p>
2	<p>○身近に起きたことのテーマを自分で決め、話して1分程度で収まるように、要点を箇条書きでメモして、原稿を作る。</p> <p>○4人グループを作り、それぞれが考えた話を発表する。</p> <p>○話を聞いて発表の仕方について評価と良かった点・改善点を話し合う。</p> <p>○自分の発表を振り返り、自己評価をする。</p>	<p>・自分の身の周りで起きたことについて考えさせ、メモを取らせ、原稿を作らせる。</p> <p>・話し手になるべく原稿やメモを見ないで相手の反応を見ながら発表させるように促す。</p> <p>◇話すときに強弱・緩急・抑揚など工夫し、相手の反応を見ながら話すことができる。</p> <p style="text-align: right;">（観察・ワークシート）</p> <p>・聞き手に反応を示しながら発表を聞かせ、発表の仕方はどうだったか考えさせる。</p> <p>・聞き手の評価や意見を参考にして、自分の発表を振り返らせる。</p>
3 (本 時)	<p>○身近に起きたことのテーマを自分で決め、話して1分程度で収まるように、要点を箇条書きでメモして、原稿を作る</p> <p>○8人グループを作り、話を発表する。</p> <p>○話を聞いて発表の仕方について評価と良かった点・改善点を話し合う。</p> <p>○自分の発表を振り返り、自己評価をする。</p>	<p>・自分の身の周りで起きたことについて考えさせ、メモを取らせ、原稿を作らせる。</p> <p>・話し手になるべく原稿やメモを見ないで相手の反応を見ながら発表させるように促す。</p> <p>◇伝える相手や内容を考えて話を組み立て、聞き手の様子を見ながら話すことができる。</p> <p style="text-align: right;">（観察・ワークシート）</p> <p>・聞き手に反応を示しながら発表を聞かせ、発表の仕方はどうだったか考えさせる。</p> <p>・聞き手の評価や意見を参考にして、自分の発表を振り返らせる。</p>

4	<p>○身近に起きたことのテーマを自分で決め、話して1分程度で収まるように、要点を箇条書きでメモして、原稿を作る</p> <p>○16人グループを作り、話を発表する。</p> <p>○話を聞いて発表の仕方について評価と良かった点・改善点を話し合う。</p> <p>○自分の発表を振り返り、自己評価をする。</p> <p>○今までの学習の振り返りをする。</p>	<p>・自分の身の周りで起きたことについて考えさせ、メモを取らせ、原稿を作らせる。</p> <p>・話し手になるべく原稿やメモを見ないで相手の反応を見ながら発表させるように促す。</p> <p>◇伝える相手や内容を考えて話を組み立て、聞き手の様子を見ながら話すことできる。</p> <p>(観察・ワークシート)</p> <p>・聞き手に反応を示しながら発表を聞かせ、発表の仕方はどうだったか考えさせる。</p> <p>・聞き手の評価や意見を参考にして、自分の発表を振り返らせる。</p> <p>◇学習を振り返り、学んだことをまとめている。</p> <p>(ワークシート)</p>
---	--	---

## 8 本時の目標と展開

### (1) 本時の目標

- ・アドバイスを参考に話を組み立て、聞き手が話を理解しているか様子を見ながら話すことができる。(話す能力・聞く能力 イ)

### (2) 本時の学習活動

本時は、身近に起きた出来事をテーマに話を組み立て、発表をし合う活動を行う。自分の伝えたいことを「相手の反応を踏まえながら話す」ということを目標とし、発表し合わせる。この活動で大切なことは、聞き手が理解しているのか、していないのかを発表者に伝わるように反応することで「話し手」と「聞き手」の関係を成立させることである。そのうえで、「相手の反応を踏まえながら話す」ことができたかを認識させたい。

また、「聞き手」が発表の仕方に対してのアドバイスを中心とした意見交換をすることで「話し手」はスキルアップすることができ、また発表をする機会を増やすことで、話すことに対する自信にもつながると考える。

意見交換は聞き手からの客観的な目で「構成」「相手を見る」「声の大きさ」「話すスピード」の4つの項目で評価をさせる。また、付箋を使いながら良かった点・改善点を話し手に伝え、「ここをもっと〇〇したらいい。」や「この部分が〇〇で良かった。」など次時の発表につながるように指導していく。自分自身の評価と他者からの評価を比較することをすることで、学習の振り返りができるように指導していく。

以上のように「話し手」と「聞き手」の関係を築き、その中で話したり聞いたりすること（発表し合うこと）に対しての関心・理解を深めさせていきたい。

(3) 本時の展開

過程	時配	学習内容と活動	指導や支援の手だて ◇評価
問題把握	5分	○学習課題および見通しを把握する。 ○前時のアドバイスや自己評価を参考に、話し手が意識することを確認する。	・本時の学習の目的、留意事項をわかりやすく話す。 ・聞き手のアドバイスを参考に前回よりも良い発表になるように意識させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">相手に分かりやすく伝える方法を学ぼう</div>
展開	40分	○テーマを発表し、そのテーマに沿って話を組み立てる。 ○8人グループを作り、話を発表する。  ○話を聞いて、話の構成や発表の仕方についての良かった点・アドバイスを付箋に書き、発表者にアドバイスをする。 ○聞き手の評価・アドバイスを参考に自己評価をする。	・話の構成「スタート」と「ゴール」がつながるように意識させる。テーマに合う話題が見つからない生徒に対しては助言していく。 ・「話し名人の五か条」「聞き名人の五か条」でそれぞれの役割を確認し、意識を高める。 ・話し手になるべく原稿やメモを見ないで相手の反応を見ながら発表させるように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">聞き手の発する非言語メディア</div> 動作…うなずく、相づちを打つ、手を打つ 身を乗り出す、首をかしげる等 表情…笑顔で、目を丸くする、目を細める等 ◇聞き手のアドバイスを参考に、伝える相手や内容を考えて話を組み立て、聞き手の様子を見ながら話すことできる。(観察・ワークシート) ・話の構成や発表の仕方はどうだったかを評価し合い、良かった点やアドバイスを考えさせ、付箋に一言コメントを書かせる。 付箋 良かった点…青紙 アドバイス…赤紙 ・前回と比べて自分の発表がどうであったか「前時と本時の評価の比較」「前時の自己評価の改善点が生かしているか」などワークシートを参考にしながら自己評価をさせる。
まとめ	5分	○学習の振り返りをする。	・自己評価を発表させ、クラス全体で共有する。また、次時に生かせるアドバイスを全体にして本時のまとめをする。

(4) 評価

- ・聞き手のアドバイスを参考に話を組み立て、聞き手の様子を見ながら話すことできる。

(話す能力・聞く能力 イ)

(5) 参考文献

- ・中学校学習指導要領解説 国語編
- ・つくば言語技術教育研究所 HP [www.laitip.com](http://www.laitip.com)
- ・話すこと・聞くことの基本の能力の育成—中学校— 井上一郎編著 明治図書
- ・話す力・聞く力の基礎・基本 井上一郎著 明治図書